

## 第3回中心市街地グランドデザイン戦略会議 議事録

### 1 開催日時

令和2年7月17日（金）10時00分から

### 2 開催場所

小牧市役所 本庁舎6階 601会議室

### 3 出席委員（名簿順）

山下史守朗 小牧市長  
大塚 俊幸 中部大学教授  
生田 京子 名城大学教授  
鶴田 佳子 岐阜工業高等専門学校教授  
名和 千博 小牧商工会議所地域活力向上委員会委員長  
加藤 紀文 小牧にぎわい隊理事

水野 嗣則 市民活動団体「ファシリテーターの会」

### 4 事務局

都市政策部 都市政策部長 鵜飼 達市  
都市政策部 都市政策部次長 水野 隆  
都市政策部 都市計画課長 永井 浩仁  
都市政策部 都市計画課 都市計画係長 馬庭 貴彦  
都市政策部 都市計画課 都市計画係主任 白木 裕之  
都市政策部 都市計画課 都市計画係主事 立山 由希子

### 5 傍聴者

8名

### 6 会議内容

#### 1 議題

- (1) 第2回中心市街地グランドデザイン戦略会議の意見の確認について
- (2) まちづくりの方向性（案）について
- (3) その他

**【都市政策部長】**

定刻となりましたので、会議を始めさせていただきたいと思います。

本日は、お忙しい中、本会議にお集まりをいただきまして誠にありがとうございます。

本会議の進行役を務めさせていただきます、都市政策部長の鶴飼でございます。どうぞよろしくお願いたします。

ただいまより、第3回中心市街地グランドデザイン戦略会議を開催させていただきます。

本日の日程につきましては、お手元の会議次第のとおりでございます。

初めに、山下市長からご挨拶を申し上げます。

**【山下市長】**

改めまして、おはようございます。

大変お忙しい中、第3回中心市街地グランドデザイン戦略会議にご出席いただきまして誠にありがとうございます。

第2回が2月19日ということで、大分間が空きました。皆さんご承知のとおり、この間に新型コロナウイルス感染症の拡大などがございまして、さまざまな行事、事業等、中止を余儀なくされたりしてきたわけではありますが、ようやく第3回ということで会議を開催できることになりました。まだ東京等でも、あるいはこの愛知においても感染、そしてまた、昨日は小牧でもお二人の方が感染確認されまして、まだまだコロナウイルスの広がりがありますけれども、注意しながら、今日は以前よりも間隔を空けて会議を開催させていただくことになりました。どうかよろしくお願いを申し上げます。

さて、先回の戦略会議では、主に「中心市街地の課題について」ということでテーマを設定して議論させていただきました。委員の皆様方から、課題にとどまらず、解決のためのヒントなど多くの貴重なご意見を頂戴したと思っております。本日は、中心市街地のまちづくりの方向性ということで主な議題とさせていただきますと思っております。

過去2回の戦略会議では、ハード・ソフト含めて多方面にわたって中心市街地の議論を深めてまいりました。今後、これまでの議論を踏まえて、より具体的なフィールド計画としてグランドデザインを描くための議論を深めていく必要があると思っております。

そうした中、さまざまな課題がありまして、大変難しいテーマではありますが、この中心市街地のグランドデザインをどう描けばいいのかということで、皆様から忌憚なくご意見を頂戴できればと思っておりますので、本日もどうぞよろしくお願いを申し上げます。

**【都市政策部長】**

それでは、次第の2、議題に入らせていただきたいと思います。

以後の進行につきましては、ファシリテーターをお務めいただいております水野嗣則様にお願いたしたいと思います。水野様、よろしくお願いたします。

**【水野ファシリテーター】**

おはようございます。本日もどうぞよろしくお願いたします。

最初に、議題（1）第2回中心市街地グランドデザイン戦略会議の意見の確認について、を議題といたします。

事務局より説明をお願いいたします。

#### 【都市計画課長】

都市計画課長の永井と申します。よろしくお願い申し上げます。

それでは、議題（１）につきまして説明させていただきます。

資料２をお願いいたします。第２回戦略会議における意見の振り返りであります。

左側に各委員のご意見をそれぞれ掲載し、右側に定住、空間、資源、来街者、情報、商業、ヒトの７つの視点を記載し、各委員のご意見が該当すると思われる視点に丸つき数字を記載しております。委員のそれぞれの意見の詳細につきましては省略させていただきます。

続きまして、資料３をお願いいたします。

この資料につきましては、第１回及び第２回の会議で出されました意見を、左側にお示ししており、定住、空間、資源、来街者、情報、商業、ヒトの７つの視点別に改めて整理したものととなります。

会議で出されました意見につきましては黒色で記載しており、末尾に記載の丸つき数字につきましては、先ほどの資料２の丸つき数字とリンクしております。また、末尾に数字の記載のないご意見につきましては、第１回の会議で出された意見となります。

意見の整理に当たりましては、さらに３つの区分に分類しております。表では、赤、緑、オレンジの色分けとしてございますが、赤の区分は主にキーワード「にぎわい」に関する意見、緑の区分は主にキーワード「まちなか居住」に関する意見、オレンジの区分は主にキーワード「活気」に関する意見を記載しております。そして、表の中で着色して記載している箇所につきましては、各意見を踏まえ、できるとイイね、という表現で整理したものととなります。

最下段をご覧ください。

それぞれの区分につきまして、目指す姿を設定させていただきました。「にぎわい」に関する区分につきましては中心市街地が集まる場になる、「まちなか居住」に関する区分につきましては中心市街地が住む場になる、「活気」に関する区分につきましては中心市街地がつながる場になるであります。これを３つの柱として整理をしてはどうかと提案させていただくものであります。

以上、議題（１）についての説明とさせていただきます。

#### 【水野ファシリテーター】

ありがとうございました。

ただいま、事務局より資料２と資料３の説明がございました。

これからは、資料２と資料３を分けてご意見をいただきたいと存じます。

初めに、資料２、第２回の意見の振り返りについて、内容等についてご意見等はございませんでしょうか。

特に、内容が違っているとかそういうことがございましたらおっしゃっていただきたいのですが、よろしいでしょうか。

ご意見がないようであれば、次に、資料３、第１回第２回会議意見から目指すべき中心市街地の姿についてご意見等はございませんでしょうか。よろしいですか。

先ほど事務局から説明がありましたように３つの柱、最下段のところの目指す姿、キーワード「にぎわい」ということで中心市街地が集まる場になる、キーワード「まちなか居住」ということで中

心市街地に住む場になる、キーワード「活気」ということで中心市街地がつながる場になるという3つの柱に分けてあります。これにつきましては、後ほど議論いたします資料4以降でまた関係してきますので、ご意見等があればまたそこでおっしゃっていただければと思います。よろしいでしょうか。

それでは、ご意見ないようであれば、議題を進めさせていただきます。

続きまして、議題（2）まちづくりの方向性（案）について、を議題といたします。事務局より説明をお願いいたします。

#### 【都市計画課長】

議題（2）につきまして説明させていただきます。

資料4をお願いいたします。先ほどの資料3の内容を、まちづくりの方向性という切り口で整理し直したものとなります。

縦方向に、目指す姿として3つの場である、集まる場、住む場、つながる場、横方向に、7つの視点である、定住、空間、資源、来街者、情報、商業、ヒトを記載しております。

資料3と同様、できるとイイね、の部分抜き出したものが赤、緑、オレンジで記載した部分となります。取組みのヒント欄では、資料3に記載の委員のご意見を箇条書きでまとめたものとなります。

最も右の欄をご覧ください。まちづくりの方向性の案であります。

集まる場として歩いて楽しい！『にぎわいの創出』、地域資源を活かし、居心地がよく、歩きたくなるまちなかを目指す。住む場として住んで快適！『まちなか居住の推進』、都市機能及び生活利便性の高い施設の集積と選択肢の充実を図り、まちなか居住の推進を目指す。つながる場としてヒトがいきいき！『活気の創出』、空き店舗のリノベーションや起業応援など活性化を担うヒトがチャレンジしやすい取組みを進め、官民連携による飲食・物販・サービスなどの集積と持続可能なまちなかを目指す。

以上、これまでの議論を踏まえ、3つの柱を提案させていただくものであります。

続きまして、資料5をお願いいたします。中心市街地グランドデザイン策定に向けた（方針の整理）であります。

（1）では、中心市街地全体の方向性となる、先ほどの資料4のまちづくりの方向性を3点再掲させていただきました。

（2）ゾーニングについてであります。まちづくりの方向性について中心市街地を2つにゾーニングし、それぞれのゾーンの整備方針を設定してはどうかと考えるものであります。

右側の図をご覧ください。

小牧駅から新図書館、ラピオを経て、たこ焼きのほていやさんのあるあたりまでをAゾーン、そこから小牧山までの間をBゾーンといたしました。Aゾーンは、小牧駅周辺の都市機能集約・近代的なイメージであり、Bゾーンは、小牧山に近く、歴史保存・文化的なイメージであります。

Aゾーンの方針につきましては、駅前にふさわしい商業機能と多世代交流機能が充実するゾーン、中高層大型建築物のある都会的な景観ゾーン、Bゾーンの方針につきましては、散策しやすく新たな発見のあるさまざまな機能が集まるゾーン、社寺のある歴史を感じられ、小牧山を眺められる落ち着きのある景観ゾーンとするものであります。今後、次回の会議に向けて策定方針の具体的な検討を進めるに当たり、入口の部分の整理とさせていただきます。

続きまして、資料6をお願いいたします。

資料6につきましては、公共空間の現況をご紹介し、将来の整備の方向性をより深掘りしてご議論いただきたい資料でございます。

位置図をご覧ください。

右のほうに小牧駅があります。左のほうへ、シンボルロード沿いに駅前広場、新図書館、ラピオ、その左上に上ノ町公園、シンボルロードを左に進み、戒蔵院、ほていや、西源寺、西林寺、玉林寺、小牧神明社、寺浦児童遊園、あおぞら児童遊園、その左に現図書館。このあたりに記載してございますギザギザの赤い枠で囲んでおりますエリアにつきましては、やすらぎみちといい、小牧市都市景観条例で定める都市景観形成重点区域に指定されております。

まず、①駅前広場、新図書館、ラピオであります。それぞれ現地では整備工事が進行中であり、現況写真を掲載しております。

1枚はねていただきまして、②シンボルロードであります。上段4枚が現況の写真、矢印の下段が先進都市の例で、将来目指すべき姿と思われまます。

右側の③公園であります。寺浦児童遊園、あおぞら児童遊園、上ノ町公園の現況写真であります。

1枚はねていただきまして、④-1やすらぎみちであります。上段の写真2枚はやすらぎみちの歩道の現況、下段4枚は神明社の緑の現況であります。

右側の④-2現図書館は、やすらぎみちに含まれる場所ではありますが、現況写真を6枚掲載しております。

以上、議題(2)についての説明とさせていただきます。

#### 【水野ファシリテーター】

ありがとうございました。

ただいま、事務局より資料4から資料6までの説明がございました。

議論するに当たりまして、初めに資料4と資料5についてご意見をいただき、その後、資料6についてご意見をいただきたいと存じます。

まず、資料4「まちづくりの方向性(案)」と資料5「中心市街地ランドデザイン策定に向けて(方針の整理)」についてご意見等をお願いしたいと思います。

それでは、委員の皆様からよろしくをお願いいたします。

大塚委員、お願いします。

#### 【大塚委員】

資料5のところでは方向性を3つ示していただいています。

歩いて楽しいというのはいいと思います。駅前から小牧山に向かっていく線として、シンボルロードが強く意識されています。次に、この線をどう面的に展開していくのかということも考えないといけないのではないかと。そこら辺を意識する必要があります、それがゾーニングという考えになるのだと思います。

例えば上街道というのが南北に走っており、この沿線に歴史を感じさせるようなスポットがちょこちょこあつたりするわけです。そういうものを大切に、まちの中で歴史を感じさせるような痕跡を大切にしながら、それをつなげていくという面的展開も、歩いて楽しいまちをつくるためには

重要ではないかなと思います。

そうなってくると、Aゾーンが近代的な都会的なまち、Bゾーンが歴史というふうにくっきりと分けるのではなく、両方の要素がどちらにもありながら徐々に緑豊かな小牧山に向かっていくというような両方の要素が入り組んだゾーニングという考え方もあっていいのではないかな、というのがゾーニングに関する考え方です。

話は戻りますが、れきしるこまきができて、そこでまちの歴史を知ることができるわけです。そこでいろいろ知ったことを現地へ行って実際に確認したりするというように、れきしるこまきを拠点にまちに出かけるというようなこともできればいいのではないかなと思っています。

あと、路地がもう少し何かに使えるといいと思います。きれいなシンボルロードもいいのですが、シンボルロードからちょっと脇道に入ってみると結構魅力的な空間があつたりするという、路地を活かしていくというのも面的展開を考えるに当たっては1つの切り口としてあるのではないかなと思っています。

以上です。

**【水野ファシリテーター】**

ありがとうございました。

大塚委員がおっしゃった路地という意味では、先ほど説明がありましたやすらぎみちですかね、このあたりがそのような性格を持てるような気がします。

**【大塚委員】**

必ずしもやすらがなくても、何かわくわくするような、いろんな意味での路地があるかなと思います。

**【水野ファシリテーター】**

わかりました。

そのほかご意見等、委員からありましたらお願いします。

大塚委員、お願いします。

**【大塚委員】**

方向性の2で、まちなか居住の話を柱として挙げていただけていますが、まちなかに居住するのは誰なのか、誰が住むのかということ想定してまちなか居住を進めていくのかということをおある程度明確にしておかないといけないのではないかな。誰が住むのかにより、そのニーズに合わせたまちをつくっていく必要があるの、そこら辺を明確にしておく必要があるのではないかなということ

以上です。

**【水野ファシリテーター】**

ありがとうございました。

そのほか、委員の皆様からご意見いただければと思います。

市長、お願いします。

【山下市長】

なかなか今意見が出ていませんけれども、この第1回2回といろんなご意見をいただいていたのですが、事務局から提案させていただきましたまちづくりの方向性について、にぎわい、まちなか居住、そして活気の創出ということに一応整理させていただいて、こういう柱立てでどうだろうという提案をさせていただいたところですが、このあたりのテーマ設定というか方向性については、ここで皆さん方から、これでいいんじゃないかとかちょっと違うんじゃないかというご意見をまだ頂戴していないと思うんですが、このあたりどういうふうにお考えかなということも併せて伺えればいいかなと思っております。よろしくお願ひしたいと思ひます。

【水野ファシリテーター】

鶴田委員、お願ひします。

【鶴田委員】

ちょっと具体の案が浮かばなかったので発言を控えていたのですが、この方向性1、2、3の中の3つ目が気になっていて。この活気の創出というのが、つながるまで表現できているのかなというのが1つ。

ここが小牧市の中心ということであれば、非常に都市らしさとかまちの顔というか、そういうものが多分3番にあると思うのですが、つながる場と集まる場って多分すごく似通っていて、何か方向性3のつながる場だけ違和感がある。活気ということであれば、ここにアーバンティニーとか、小牧市としての都市の顔とか、そういうようなことがつながる場以外にいい言葉がないかなとずっと考えていて、いまいち浮かんでいないのですが、ちょっとそこだけ気になったかなというところがあります。

案がなくして申しわけないので。

【水野ファシリテーター】

生田委員、お願ひします。

【生田委員】

まず、この資料4の表を拝見しまして、幾つか私も申し上げた意見が反映しているという印象を受けました。例えば空間とか子育ての視点から、今せっかくラピオがあつて、商業的な内容があつて、しかも新図書館が建つということでかなりお子さんたちを連れた人たちが来る要素が増えつつあるので、さらにそれを補完するような意味で遊ぶ場所というのが3点セットで設けられると、ある意味子どもを連れてきた人が結構長い時間滞在できる空間になるので、以前に申し上げた意見を多少反映していただいているのかなと。あるいは、商業の中でもう少し気軽に、つまり小さな単位で出店できるような取組みをしているほかの市町村もあるので、そういうことも入れるといいねということでお話をして、それがうまく整理されているという印象を受けたとともに、もしかすると実際のところは、ほていや以降のBゾーンのところ、かなり文化的な要素を重視したいという意向も感じられますので、少しまちづくりの方向性の中の方向性という大きな中に文化という言葉が入ったりとか、この表の中にも、資源というふうには呼ばれているわけですがけれども、もう少し歴史・

文化的な言葉遣いをしておいてもいいのかなと思いました。

あと、Aゾーン、Bゾーンの図ですけれども、AゾーンとBゾーンという区分けに対してはなるほどなというふうに、比較的高度利用のできる用途地域があるところと、そうではない低い、住居的な用途になっているところで多分高さとか区分が分かれているのだなと納得したとともに、でも、整理としてはもっと詳しくやりたいなというか、少しざっくりとした区分けになっているような印象で、多分大塚委員がおっしゃられた路地とかいう話も、いわゆるシンボルロードに対してさらにそこから分岐していく細い道に対しても何か提案をとというイメージで私は受け止めたので、シンボルロードのイメージが示されるとともに、その背後にある路地とかつながりみたいなものに対しても何かイメージが示せるような細かいつくりになっていくといいなと私は思いました。

以上です。

**【水野ファシリテーター】**

ありがとうございました。

今の生田委員のお話は、もう少しゾーニングを細かくといたしますか、そういうようなイメージでしょうか。

**【生田委員】**

ゾーニングという形で細くなのか、あるいは断面的にも、恐らくシンボルロードの付近に集積があるなら小さな建物になってくるという別のイメージ図なのかわからないですけれども、シンボルロード沿いのところに少し、ほかの資料の中でも、例えば資料6の2枚目の下の段のところでオープンカフェのようなイメージということで、ここから次にどう動こうかなという空間的なイメージが示されていると思います。ですけれども、その空間的なイメージをほかの、直交するような軸のほうの路地にも持っておくと、どこまで進められるかは別としても、持っておくのはいいことなんじゃないかなという意味でした。

**【水野ファシリテーター】**

ありがとうございました。

そのほか。

名和委員、お願いします。

**【名和委員】**

商業者としての発言をさせていただきたいと思っております。

つながる場、人がいきいき、これはもちろん賛成でございますし、このとおりでなと思っております。

活気の創出には商業の活性化は必要不可欠だと思っておりますが、皆様ご存じのように、2月に議論していた時点と現在の時点では商業の体力は著しく違うわけですね。新型コロナウイルスの関係で、まず商業者は著しく体力を落としている。さらに活気を出そうという以前に、何とか今を継続していこうという動きに現在なっているわけです。したがって、この議論をさせていただく上で、商業の立場から理想論を述べても仕方がないので、まず現状をどうしていけばいいのか。その先にあるのが、旧商店街とイレギュラーでいろいろ出ていただきます商業の方々と今後どうやって



元の位置へ来るのか、そしてそこからより活性化していくのかという議論で話をさせていただければいいのかなと考えておったのですが。

やっぱり2月の時点と7月の時点では全く体力が違うわけです。そのあたりを考慮した上で今後検討していけばいいかどうかということをお伺いしたいなと思います。

【水野ファシリテーター】

山下市長、お願いします。

【山下市長】

いろいろとご意見伺いました。

まず、名和さんのご発言についてですけれども、本当に新型コロナウイルス感染拡大の前とはいろんな意味で世の中が大きく変わっている、また変わらざるを得ない状況になっていると私も思っております。

中心市街地のグランドデザインについてこのコロナの関係がどのように影響するかということについては、まだ私としても見通しが持てないところでありますけれども、商業振興あるいは産業振興ということについては、小牧市企業新展開支援プログラムということで産業振興計画、あるいは補助制度もかなり倍増して、ここ数年力を入れてきている状況、ご承知のとおりだと思っています。そういう中で実は改訂作業を進めておりましたが、新型コロナウイルスがこういう状況になりましたので、実は外部の委員さんも含めてご議論していただいていた中で、そうしたことについて、延長線上でというよりはコロナを踏まえて考えなきゃいけないということがあります。そうした視点から見直し作業を今まで進めていたのを一旦中断して、コロナの影響についてどう対応していくのか。まさに今お話のあった商業者への継続支援も含めて、まずここをしっかりとやらなきゃいけないだろうという視点で、大きく議論をここで方向転換しなきゃいけないなというところであります。

ですから、中心市街地グランドデザインということじゃなくて、産業振興、商業振興という観点では、まさにそのあたりの視点を踏まえて市として議論をスタートさせている状況です。これは余談になるかもしれませんが、別の観点でそんなことも今やっている状況で、少し情報提供させていただきたいと思います。

新型コロナウイルス感染拡大の前と後でどうというのも、もしこの中心市街地のあり方ということについても何らかの視点を入れていかなきゃならないとすれば、また具体的にご意見いただければありがたいと思います。

ちなみに、新図書館は予定どおり来年の3月オープンということで工事は順調に進んでいる状況であります。コロナの影響で資材等、工事の影響も心配したんですけれども、その点は順調に進んでいる。それから、ラピオの中のこども未来館についても、一応中の工事は終わりました、今後、備品等を入れながら開館に向けてという状況にあるんですけれども、デジタルコンテンツについて、3大学にお願いして連携して今やっているんですが、学生さんが学校に来れない状況でありまして、そこら辺の影響でその開発が遅れているということ。9月くらいにオープンの予定でしたけれども、予定だと大体12月ぐらいまでずれ込んでくるんじゃないかなと、11月12月ぐらいになるんじゃないかなと報告を受けております。

ただ、このあたり、コロナの関係でどう対策するかということについては、なかなか難しいところがあるなという中で、こういう状況になるとは思っていませんでしたから、これは影響あるだろうと

思っていますけれども、今手探りの中で検討している状況であります。

そんなことも情報提供させていただきます。

現図書館については、この6月の市議会において答弁させていただいたのですが、現図書館の建物についてはなかなか利活用が難しいということで、取り壊しをしていくということについて市として決定したということをご報告させていただきました。

改修費だけで5億円ぐらいかかると。また、これからさらに活用していくとなると耐震も補強しなきゃいけないだろう、さらにそれはプラスアルファでかかるだろうと。それから、バリアフリーがなかなか難しい建物であるということもございまして、利活用を前向きに検討してきたんですけれども、断念せざるを得ないだろうという判断をさせていただいたところでもありますので、この点も委員の皆さん方にもご報告をさせていただきます。

また、取り壊した後の土地の利活用につきましては、現時点で市として何らかの方向性が出ている状況ではございません。まだ白紙という状況、いろいろ検討したのですが、なかなかまだ方向性は出ていないという状況であります。ただ、ここは第一種中高層住居専用地域でありまして、これまでの議論にもございましたけれども、なかなか商業施設とかいっても限界があると。150平米だったかな、間違っていたら事務局で指摘してもらいたいのですが、大きさにそれ以上のものは建たないということもあって、なかなかいろいろと限界がある状況だろうと。このあたり、先生方からも、地区計画をつくらしたらどうだとかいろいろありましたけれども、現状としては、制限のある土地の中でどう活かしていくのかということだろうと思っております。

幾つかご報告をさせていただきました。

あと、これは私の考えであります。先ほど鶴田先生からご指摘ありましたけど、私もこの戦略会議に限ってという、事務局と私とまた立場を別にしておりまして、私も忌憚なく、市の立場というよりは市長として個人的な意見を申し上げているのですが、方向性1と3、私にもぎわいと活気、何が違うんだというぐらいの感覚がありまして。にぎわいの創出と活気の創出と、言葉遊びじゃないですけど、そう変わらないのじゃないかなという感じがします。この3本柱、3つの方向性についてはもう少し議論を深めてもいいのかなと個人的には思っております。先生からご指摘いただいたこと含めて、もう少し深掘りしたほうがいいのかと、今ご意見を伺って私もそうだなと感じました。

ちょっと長くなりましたが、以上です。

#### 【都市計画課長】

先ほどの市長のご発言の中で、1点訂正をさせていただきたい部分がございます。

店舗の面積150平方メートルということでしたけれども、第一種中高層住居専用地域における店舗につきましては、床面積500平方メートル以下ということでございます。

#### 【水野ファシリテーター】

150坪は大体500平米になりますから。

#### 【山下市長】

150坪でした。私も訂正させていただきます。

【水野ファシリテーター】

大塚委員、お願いします。

【大塚委員】

今の方向性1、2、3についてですが、一応私なりにこれを理解しようと努力しました。私の理解では、1と2というのは、外から来たたくさんの人がまちの中を歩き、それがにぎわいだということと、そのまちに住む人に関する事、この2本柱は割とわかりやすい話だと思います。それを実現するためにはいろんな人がそれを支えないといけないし、実行していかないといけない。そこで人と人とのつながりができて、人がつながることによって人々の活動が活発になって活気生まれる。それで集まる場所や住む場所ができていけば、それによって新しく生まれるものがあったりして、そこで商業というものもどんどん活気を持ってくるだろうということです。だから、1、2と3は別物で3は1、2を支えるものであり、1、2の結果として生まれてくるものだという整理の仕方をすれば納得できるかなと思います。

以上です。

【水野ファシリテーター】

ありがとうございました。

加藤委員、ご意見ございますでしょうか。

【加藤委員】

私も、方向性については納得できるもので、言葉の問題としては、集まる場というのはやっぱり文化・教養を主にテーマにしているなとか、つながる場というのは商業的なものを主にしているなというのを理解しながらであれば、この3点は十分理解できるので、ここまでのことについてはそれほど文句を言うつもりはなかったもので、黙って聞いておりました。

【水野ファシリテーター】

ありがとうございました。

特に、資料4のまちづくりの方向性の3つの柱については今までご意見が出ておりますけど、全体としては特にそのほか皆さんからございますでしょうか。

それでは、資料5のゾーニングについて、追加でご意見があればお伺いしたいと思いますが、いかがでしょうか。

先ほど市長がおっしゃったように、Bゾーンのほうに現図書館が含まれますので、その跡をどうするかというのは今後の大きな話になってくるのでしょうか。

【山下市長】

現図書館の土地の跡利用については、確かに市としても大きなテーマだと思っています。

このBゾーンのまちづくりについては、それも1つ大きく影響するだろうと思いますけど、それに限らず、ゾーンとしての全体の議論をしなければいけないだろうと思います。建物をまず利活用しようという議論をずっとやってまいりまして、本当にいろいろな観点で議論したんですけども、なかなか利活用は難しかったということで断念して、先ほど申し上げたように、取り壊しをして、

全体の土地として利活用を図っていこうという方向性にさせていただいたものですから。まだ、どういう方向性でということについては、市としても鋭意検討しておりますけれども、方向性が出せていない状況にあります。

土地としては非常に、小牧市の中で一等地だと思います。これは商業的な駅前のか郊外の一等地ということではなくて、例えば住む場所として考えたときにも一等地になると思います。駅に歩いて行ける距離で、中心市街地の中にある。そして、山にもすぐに散歩にも行ける、小牧山も行ける。そして、小学校、中学校、高校全て近くにありまして、本当にまちなかに近くて、さらに静かな住環境もあるという意味では、小牧の中でも非常に恵まれた立地だろうと思います。住む場所としても非常にいいということもありますけれども、どう使うのかということについては、これから皆さんのご意見を伺いながら検討していきたいと思います。

ちょっと話が変わりますけれども、先ほど大塚委員からも話がありました、確かにゾーンということになると面ですので、点から線につなげる、そして面にとということですが、今の小牧においては、シンボルロードから脇道のほうへということについては計画としては描きにくい状況できてしまいました。確かに、ゾーンというからには面だろうと思いますので、今後はそういう視点確かに大事だろうなど、ご意見を伺って感じたところであります。

上街道の話もありましたけれども、先ほどのつながるという方向性3にもありますけれども、市民の皆さん方がそうした歴史ある街道なども活用しながら、人の集まる、つながる場づくりということでイベントを開催していただいていますし、そうしたハードのみならず、ソフト面でも人のつながりの中でそうした広がりをつくっていくことも大事ななと思います。

**【水野ファシリテーター】**

ありがとうございました。

そのほか、委員の皆さんからご意見よろしいですか。

大塚委員、お願いします。

**【大塚委員】**

今の面というのは、一気に面にとというのは難しいと思うので、まず面に広げていくためには1個1個の点を大切にすることです。その点も多分、今までそんなに評価していなかったものをもう一度見直してみて、その1つ1つを大切にしていこうということをやっていけば、自ずと広がりというかつながりが面的に考えられやすくなるのではないかと思います。学生を連れてパンフレットを見ながら、ここにはこういうのがあるんだということを1個1個確認して歩いていくと、マニアックかもわかりませんが、結構魅力的な要素がたくさんあるなというのは感じました。

**【水野ファシリテーター】**

ありがとうございました。

市長、お願いします。

**【山下市長】**

そうですね。私も、たまたまですけれどもまちなかで生まれ育ちましたので、そのとおりで思います。

先生おっしゃるように、例えば屋根神様とかも残っていますしね。家はもう取り壊されているんだけど、屋根神様だけ柱の上で保存されていたりとか、結構地元の皆さん方も大事にされているこれまでの歴史もありますので。岸田家もありますし、この旧街道というのは今おっしゃるようなこともありますし、神明社もあります。そういう意味では歴史とかそういったものを、あまり取り上げてはいただけませんが、そういったものが残っていて、マニアというか好きな方には非常に発見のあつておもしろいまち歩きができる、そういった資源はあるのかなと思います。

【水野ファシリテーター】

ありがとうございました。

ほかに、資料4と5についてご意見はございませんでしょうか。

鶴田委員、お願いします。

【鶴田委員】

ゾーニングというか、AとBに分けてそれぞれの方針を示す、都市計画的な位置づけとかエリアの性格が違うので、これはわかるんですけど、例えばシンボルロード全体、空き家をこう活用しましょうとか歩道をこう空間整備しましょうとか、共通するようなこともあるように思います。今ここで方針を分けられているのは、例えばこちらは用途地域がこうですね、歴史的な資源がたくさんありますねということなので、シンボルロード全体としてこういうふうにしていく、ただ、それが実際やる手法としては、あるいは空間的な条件とか歴史的なこととかをやると、それを実現しようと思うと方法論が変わってくるというふうになんか私には思えて。

なので、全体の、どんなふうにつくっていくのかとかいう大きな整備方針があつて、その下にこのA、Bってくるのではないかなというのが、今までの2回の話の中でのことを振り返ると、何かそのほうが私としてはしっくりくるところがあるんですけども、いかがでしょうか。

【水野ファシリテーター】

ありがとうございました。

それは先ほど大塚委員からもお話がありました、AゾーンとBゾーンの両方の要素を取り入れて、明確に分けるのではないという話でしょうか。

【鶴田委員】

それとはちょっと違うのですが、大きい全体としての方針があつて、その方針に沿って、エリアの特性に合わせて空間を作っていくときの作り方が違うと言ったら変ですけども、全体の方針の中にあつて、その中にAとBがあるんじゃないかなということなので、混じるとかそういうことではないんですけど。

【水野ファシリテーター】

わかりました。

今のご意見について、どなたか委員の皆様からご意見ありますか。

【山下市長】

まさにその部分が今のこの議論でいくと（１）のまちづくりの方向性ということじゃないかなと思うのですが、それとは違うわけでしょうか、私も質問で申しわけないです。

方向性１、２、３とありまして、例えば集まるとか住む場だとかつながりということですが、これについてはＡゾーンとＢゾーンとどちらも共通していて、ただ、今の駅前のゾーンのＡと、ちょっと静かなやすらぎみちがあるようなＢゾーンについては、まさに同じように集まったり住んだりつながったりということについては目指すんですけれども、鶴田委員がおっしゃるような手法というか方法論が違う、手法を分けていくようなゾーニングなのかなと、私も皆さんの議論を聞きながら理解を深めていたところですが、どうでしょうか。

#### 【鶴田委員】

例えば、歩道というか道路の空間をこうつくりましょうとか、たまりをつくりましょうとか、それは多分共通していると思うのですが、景観的にこうしましょうとか看板こうしましょうとか、それは大きく違ってくると思うんですね。あるいは、たまりのつくり方も、周りに高い建物があっただけでこうなっている場所と歴史的なところでは当然違ってくると思うので、全体としてこういうふうなつながる場、集まる場をつくりましょうというのは共通していて、Ａゾーン、Ｂゾーンでそれぞれ、それに対してこういうつくり方をしましょうということになるのかなと思ったんですけど。

#### 【水野ファシリテーター】

ありがとうございました。

そのほかに、ご意見等よろしいですか。

それでは、ほかにご意見等ございませんでしたら、次に資料６ 公共空間整備について、先ほど事務局からお話がありましたように、現況を紹介していただいたんですけど、将来の整備の方向性をより深掘りしてご議論をいただき、こういう資料となっておりますので、皆様からご意見等をお願いいたします。

市長、お願いします。

#### 【山下市長】

意見というか、口火を切らせていただくということなんですけれども。

資料６で現況写真なども用意させていただいて、皆さんご承知のとおりですが、改めて私も写真を見て、ちょっとやっぱり写真で見ると、現地はいつも通っているんですけども、なるほどなと思って気づくこともあります。

１枚はねたところに、左側のシンボルロードの写真のところですけど、下にはイメージの写真が、久屋大通と神戸の三宮中央通りというのがありますけど、どなたか忘れちゃったけど、第１回第２回の議論の中で、歩いて楽しめるまちなか整備について、少し休めるような場所やベンチなどもあったほうがいいんじゃないかなというご意見もたしか出ていたと思いますので、そのあたりを取り入れさせていただいて、やはりそういったことが大事かなということで、イメージの写真をつけていると思っております。

今はハナミズキやら、少し街路を庭風に整備されているんですけども、座れるところはないものですから、歩いて楽しんでとどまることもできるような整備のほうは今後のいいのかなということで、そういうご意見の中でイメージを入れさせていただいた。このあたりもまた改めてご意見い

ただくといいのかなと思っております。

都市施設としての公園があるんですけど、これも前に私が申し上げたのですが、実は案外この中心市街地には公園が少ないということについては、まちなか居住という意味での居住性の中でこれから若い世代や子育て世代にもやっぱり定住をさらに促進していきたいということからすると、居住性とか魅力を上げていくような整備が必要だなと思っております、そのあたりが若干、公園については心配しているというか、もう少し必要なんじゃないかなということは私個人的には実は前から思っているんですが、なかなか土地的には難しいかなという中で考えています。

もう1つは、中心市街地の店舗関係について、飲食店とか店舗、なかなか少なくなっているよねということについては以前からの課題なものですから、そのあたりについて、やっぱりこの中心市街地を語る上では大きなポイントだろうなと思っております。

いろんな視点があると思えますけど、まずもって少し口火を切るということで、所感になりましたけれども、雑感ですが申し上げます。よろしく申し上げます。

#### 【水野ファシリテーター】

ありがとうございました。

委員の皆様から意見をお願いできればと思います。

加藤委員、お願いします。

#### 【加藤委員】

さっき市長が言われたみたいに、特に歩道ですよ。これ、結構まだいいところの写真が載っているのですが狭さは感じないんですけども、本当に商店街の中、一番中のほうだともっといろいろなものがごちゃごちゃ置いてあって、あんまり歩道が広くない感じがします。そこら辺もうちょっと整備すれば、確かにベンチを置いたりちょっと一服というような雰囲気のところもつくれないことはないなと思っておりますので、それが小牧山に続く道の中でちょっとゆったり、小牧山に行くのが目的じゃなくて、小牧山に行く道中が楽しくて歩くというようなシンボルロードにしたいと思うので、そういう整備ができたらいいなと思っております。

2月からここまでのまちの状況ですけれども、コロナの影響だけではないとは思いますが、お店が閉店されるだとか、飲食店をやめられるとかそういうことも出てきて、空き店舗になっているところもありますし、その空き店舗もまた新しい飲食店が入る準備をしているとかいうことでちょっと状況もいろいろ変わっているなどは感じております。

継続してお店をやるということがちょっとしんどい時期になって、世代交代のことも含めていろいろ考え直さなきゃいけないこともあるので、全体的に活気を持ってやらないと、1人抜け2人抜けという状況にもなりかねないと思いますので、元気なところが頑張るってやることによって、俺も頑張ろう、あそこに店を出すとお客さん来るよねっていうものを1つ1つ植え付けていかないとかなかなかそうはならないので。

にぎわい隊も何にもできない、イベントも3月から計画してはやめてということをやっと続けて、今度やっと10月に何とかやってみようかなとなっているんですけど、何か一歩出ないと次がやれないので、今計画しながら活気を戻したいなと思っております。

#### 【水野ファシリテーター】

ありがとうございました。

今は、城見市とかそういうのもやっておられないんですね。

**【加藤委員】**

3月からずっと中止が続いて、今10月に再開しようということで準備をしています。どういう形だったら開催することができるか、通常どおりにはやれないと思うので、お店の数だとかスタッフのことだとか検討して10月の準備にかかろうということにはなっています。

**【水野ファシリテーター】**

ありがとうございました。

市長、お願いします。

**【山下市長】**

関連で情報提供しますと、市の主催行事もずっと中止をしまして、大きなところでいえば、去年初めて開催した令和夏まつりも8月の下旬に開催予定でしたけれども中止にしていますし、また、9月の小牧山の信長夢夜会、これも飲食店でかなりにぎわう大人の夜の祭りですけど、これも飲食を伴いますので、コロナの影響でなかなかこれは対策が困難だということで中止を予定しています。あわせて、市内最大のイベントであります10月の小牧市民まつりも今回は中止ということで、ウェブ市民まつりをやると言っていますけれども、いろいろな工夫の中で、できることで盛り上げていこうということは、市民の皆さん、市民団体の皆さんや職員も考えてくれているんですけども、大きなイベントも軒並み中止という状況の中で、秋ぐらいまでは仕方ないなという状況にあるところです。

来年、再来年と新型コロナがどうなるのかというのは全くわからないものですから、ワクチンが開発されればという話もありますが、なかなかそう劇的にということにはならないんじゃないかという話も聞きますし、時間がかかるということで、今年だけで終わらずに、来年、再来年のことも考えて、どうコロナと付き合いながら行政運営や、もちろんまちのにぎわい創出やいろんな生涯学習や文化行事等をどうしていくのかということについては、本当に今手探りの中で新しい形を考えなきゃいけないかなと思っています。

話が中心市街地からずれましたけれども、にぎわい創出のいろんなイベントも市民の皆さんにやっていたらいいんですが、市としても今そういう状況で、なかなか先が見通せない手探りの状況で、何とかしなきゃいけない状況にあるということを報告させていただきます。

**【水野ファシリテーター】**

ありがとうございました。

大塚委員、お願いします。

**【大塚委員】**

もしかすると鶴田委員がおっしゃられたことと同じことかもしれませんが、今日、まちづくりの方向性という話でいろいろ議論をするということで資料を作っていたらいいんですが、その方向性の先の目指すべき中心市街地像みたいな話は今まで議論していたのかなということが気にな



りました。そこら辺について、この会議としてどういう小牧の中心市街地像を描くかということが共有できていたのか。5カ月ほど空いてしまったので忘れてしまったのですが、そういうものがある、そこにどういう切り口で向かっていくのか、そのためには具体的にどういう方法でやっていけないといけないのかという話になるのではないかと思います。将来像が共有できていないから、まちなか居住といっても誰が住むの、にぎわいといってもどういう人たちが訪れてそこで何をするの、住んだ人たちはそこでどういう生活をするのだろうかというイメージが浮かんでこないのではないかと思います。そのため、具体的なアイデアがなかなか出てこないのではないかと思います。感想を持ちながら今お話を伺っていました。将来像は共有していましたでしょうか。こんなことを今言っていていいのかわかりませんが。

**【生田委員】**

かすかに私の記憶の中では、少なくともシンボルロードを何か方向性を持ちたいということとか、小牧山につながる文化的な、あるいは中心的なものとして中心性を持ちたいというような方向性とか、あるいはそれと、大塚委員もおっしゃっていた、文化的にもいろいろな意味で貴重な点をつないでいけるような構想にならないかというぐらいまでは共有していたような気がするんですけども、どうですか。

**【大塚委員】**

それも何か方法というか、それは何のために、その結果どんなまちをつくっていくのかということと、ころがあまり共有できていなかったのかなと思います。私が理解していなかっただけかもしれませんが。

**【生田委員】**

このBゾーンとAゾーンのときに私もコメントさせていただいたんですけども、少しざっくりとしているという印象で、ある程度共有していたものはあったと思うんですけども、そこから深く突っ込んでいくような細かいイメージとかが恐らく議論しきれていないということでしょうか。

**【大塚委員】**

あるいは、我々だけが理解していなくて、名和委員などは当然こんなまちにするというのは頭の中でお持ちで、そのようなことは議論するまでもないことなのかわかりませんが、ですからそこら辺ちょっとどうかなと思ったわけです。

**【山下市長】**

大塚委員がおっしゃるところのイメージが、私も今十分に受け止められていないんですけども、ただ、目指すまちというのは、当然それぞれ人によってイメージが違うこともあり得ると思うんですけども、ざくっと言えば、ここにまちづくりの方向性1、2、3と出ていますように、まずここに住みたいという人たちが増えるようなまちでありたいし、また、来たいという人たちも増えるようなまちでありたい。やっぱり中心市街地というのは小牧の一番の集積を持つ、いろんな意味で拠点でありますので、そういう意味では、小牧市民が小牧の中心といたらどこと言ったらここになるということですし。

じゃあ何が必要かというときには、私としては前から申し上げているんですけど、精神的な支柱とかシンボリックなものがやっぱり必要だろうと。これは小牧山もあるわけですけども、小牧って何があるのと、駅前どうなのと言ったときに、市民の皆さん方が小牧のまちなかこうだよということが言えるような状態にあるかという、まだまだそこら辺がいろいろ課題があるなという感じを私自身思っています、そこをやっぱりもっとさらに厚みを増していかなきゃいけないだろうという思いでこれまで進めてまいりました。小牧山のこともそうでありますし、小牧山の歴史的なものについても深掘りしながら発信して、さらに市民が誇れるような形にしていこうということも進めてまいりましたし、れきしるこまきも造ってきた。それから、駅前の整備も、小牧駅の再開発がバブルからずっと来てちょっと中途半端な状況でそのままになっておりましたので、それをやっぱり再整備しなきゃいけないだろうということの中で描いた整備として、図書館もそうでありますし、ラピオの再構築もそうでありますし、全体としてやっぺいこうと。

それから、長年そういった状況できておりますので、この機会に改めて中心市街地のあり方をどうこれからどうやっていくのか、もう一度原点に返って議論していくことがまさにこの会議でありまして。これまでの流れは確かにありますが、それがやっぱりいろんな時代の変化の中で少し、もう一遍考えなきゃいけないよねというところに実はここしばらくあったんだと思っています。私が就任してから10年ですけども、その中でいろいろ議論はやってきたし、具体的に進めてまいりましたけれども、さて山の整備、駅前の図書館とかラピオとかいろんな部分を進めてきた中で、図書館とか未来館については人が間違いなく集まる施設になってくると思うんですが、それを周辺にどう波及効果を生み出して、全体として民間も含めた厚みを出していくにはどうしたらいいかということについて、全体として市民の皆さん方と事業者の皆さん方とも方向性を共有しながら官民一体でソフト・ハードを含めて進めていかなきゃいけないだろうという思いで、そこら辺がまさに、大塚委員がおっしゃるところが曖昧だといけないのですが、もう一遍みんなで共有しようというのがこの会議のまさに目的でありまして、どういうふうだったかなという話にここでなっているとけない部分ではありますので、きちんと話をしなきゃいけないだろうなと思います。

私としては、そういう中で、集まってくる場であり、住みたいまちであり、そういったことについては当然ながら、それがどういうものなのかといったことであれば、またこれは細部には議論があるんだろうと思います。景観面だとか施設面だとかも含めて。

#### 【大塚委員】

なぜ今さらそのようなこと言うのかみたいな感じですが、先ほどのお話の中で通りにベンチを置いたりということで、実際ここは誰が歩くんだろうか、それは誰のためのベンチなのというのがないと、本当にそのベンチが必要なのか、どんなベンチをどこに置くのが一番いいのかというのが決まってこない。だから、そこら辺はやはり前提として共有しないといけないのではないかなということ。

#### 【山下市長】

具体的なイメージですね。

#### 【大塚委員】

そうですね。お年寄りが歩くのか、観光客が歩くのか、ファミリーが歩くのかということ。

誰が住むのかというのも、高齢者を中心に考えるのか。便利だからということで高齢者居住をどんどん進めていって高齢者がまちの中心部にたくさん住むというのを想定するのか。あるいは駅前で便利だからということでワンルームマンションに、電車に乗って名古屋に通勤するような人たちがいっぱい住むようなまちをイメージするのか。そこによって、そういう人たちの生活に必要な機能は変わってくるだろうから、そういう人たちの生活を支えるためのものを用意しないといけないだろうし、そこの通りを歩くとしたらどういう人たちが歩くのか、そういう人たちは何を必要とするかというので、沿道にそういうものが必要になってくるだろうし。そこら辺のものをイメージした上でないと具体的どころがやはり、本当にそれって必要なのだろうかというところの確認ができないのかなと思って、発言させていただきました。

【水野ファシリテーター】

ありがとうございます。

市長、お願いします。

【山下市長】

よくわかりました。大塚委員のご趣旨が、私が十分に受け止められなかったんですけど、今の話を伺ってなるほどなと思います。

具体的な、どういう人、ターゲットをイメージしたまちづくりをやるかということの、ターゲティングというか、そういうところがもう少し明確なほうがいいということだろうなと思いました。

住むという意味でいえば、確かにおっしゃるとおりです。皆さんからご意見を伺ったほういいですね。

【水野ファシリテーター】

生田委員、お願いします。

【生田委員】

私も、大塚委員のお話で、資料4の定住のところに戻りますが、定住のことについて何を説明しているのかなというのを見ていて、中心市街地に高いサービスが提供されると定住者がついてくるだろうという流れでまとまっているのかなと思うんですけども、もう一方で、やはり現状住んでいるとか、現状の不動産の動向とか、今後の不動産的な予想とかトレンドとか、現状のまちの居住者像あるいは居住の動向の分析が入らないと、思いの中だけで高齢者に住んでほしいとか子どもに住んでほしいとも言えないので。そのところ、この場なのかはわかりませんが、どこかでそういうことが議論されていれば少しそういう資料があったりとか、それについて実際どういう人に向けてこの定住というのをイメージしているのかというのが共有されていくのかなと思いました。

【水野ファシリテーター】

ありがとうございました。

もう少しかみ砕いたところから議論を積み上げてこないとなかなか出てこないという話ですね。

【山下市長】

難しいです。

私の個人的な感想からいくと、例えば高齢者の皆さんにいっぱい住んでもらって高齢者のまちにしようとかいう目標を持っているわけではない。やっぱり中心市街地は便利だから確かにまちなか居住の中ではご高齢の方も歩ける距離にいろんな施設がある、それはもしかしたらそういうニーズもあるのかもしれませんが、さりとてやっぱり小牧市として高齢者の皆さん中心にターゲットを置いて高齢者がいっぱい住むまちにしようって、そういう発想はなかなか難しいところかなと思いますので。かといって若い人ばかりのまちとか、高齢者は住んじゃいけないとか、そんなことはもちろんないわけでありまして、なかなか難しい議論だなということは思います。

ただ、集まるという部分でいけば、やっぱり若い人たちにも魅力を感じていただける、来たいと思えるような中心市街地でありたいと思います。じゃないとやっぱり活気は出てこないと思いますので、若い人たちや子育て世代にも、郊外の大きなショッピングモールとかではなくて、まちなかに来て歩いてもらえる。いわゆるにぎわうような中心市街地が、昔はそうだったけれども、もう一遍そういう中心市街地が欲しいねというのはどこのまちも多分思っていることで、小牧としても、人が集まる、歩くという意味では若い人や子育て世代も含めてターゲット、歩いていただけるようにということは思っています。これは、ある意味図書館や未来館にもつながってくるものかなとは思っています。

来る目的がないと来ないというのがあるので、目的を増やしていこうということをやってきましたし、ただ、それが施設との往復だけじゃなくて、できればまちに広がるような、歩いてもらえるような仕掛けはどうすればいいのかとか、そのあたりが今後大事かなと私は思っています。

答えではないですけども、感想です。ターゲットという話がありましたけれども、どうでしょう。

【水野ファシリテーター】

大塚委員、お願いします。

【大塚委員】

私の説明がまずかったかもしれませんが、ターゲットを絞らないといけない、どれか1つに絞らないといけないと思っているわけではありません。例えば、子どもの施設を造って、そこに来た人たちのためにはこういうものが必要だろうということを考える。何をやるにしても、例えば図書館の跡をどうしていくのかということを考えるためには、そこにはどういう人たちが来るだろうから、そういう人たちがこういうときに利用するものとしてこういうものがあるといいよねというように。また、こちらはお年寄りが歩いてくれるだろうから、そういう人たちのためのものは必要だろうし、観光客はここをこう歩いてくるだろうから、そのためのものとしてこういうものが必要だろうというのをイメージしながら1個1個やっていかないといけないのではないかということです。

【山下市長】

私ちょっと勘違いを。捉え方がちょっと不十分でした。

【大塚委員】

私も、考えを変えてしまっているところがあるかもしれません。

**【山下市長】**

確かに具体的なイメージは大事ですよ。

**【水野ファシリテーター】**

名和委員、お願いします。

**【名和委員】**

大塚委員が言われた意見、至極もつともだと思っております。

実は私、過去、青年会議所や何かを通して何々をつくろう、建物を造ろう、これをこうしようというのではなく、あるものをどう活かしてにぎわいをどうしていこう、考え方をどうしていこう、そういうことをやってきたわけです。

その考えからいきますと、現在、駅前とか小牧山への道路につきまして、通過するだけの道路では意味がないわけです。いかにすばらしい道路が出来上ろうとも、それぞれそこに目的というのは多分必要になってくると思います。つまり、駅前から小牧山へつなぐだけという目的であってはいけなくて、大塚委員が最初に言われました、点と点をつないで面としていくという話の中で、その点をそれぞれどうやって主役にしていくんだらうと。その主役がいろいろあって、その結果シンボルロードっていうのは端から端までつながっていくという考え方にしていけないと、ただ単に通過する、ベンチが置いてある、それはお年寄りが歩いたときのベースキャンプになるんだ、それではだめなんですよ。それぞれ主役っていうのをそこに見つけて、それをどう活かしていくか、要は、ドラえもんばっかではいけないわけです。時にはしずかちゃんとかのび太もきちっと横に配置しながら、その主役を途中途中でどう活かしていくんだということをやっているといけな。

それからいくと、この中心市街地ランドデザインというのを、まちの建物とか中心で議論するのではなく、やっぱりその場所をどう活かしていくんだというイベント案とか活かす案をやっていく。同時にやっっていかなきゃ、結局この議論って多分進まないと思うんです。建物じゃなく、その建物周辺でどう活かしていく。だったら祭りをこれでやろうとか、こんなイベントをやっっていこうとか、縦割りではなく、もう少し広い議論をする会議体にしていくことも必要なかなとふと思いましたので、発言させていただきました。

**【水野ファシリテーター】**

ありがとうございました。

ハードだけじゃなくて、ソフトもいろいろ議論しないといけなよという話ですよ。

**【名和委員】**

はい。どうしても市役所は、批判じゃないですが、どうしても縦割りっていう非常に厳しいところがあるのでなかなか難しいかもしれませんが、例えばこういう議論をしている中で、市役所の中のシティプロモーション課や何かがやっておられるような議論も併せてやることで、さらにこれが生きてくるんじゃないかなと思いました。

【水野ファシリテーター】

ありがとうございました。

公共空間の整備ということで今日は議論させていただいておりますので、それをどうするかというのはまた別の議論になるかと思いますが。

【山下市長】

名和委員がおっしゃったような、どういう使い方をしていくのかということも想定しながら、そして具体的にどういう人がどういう使い方をしてどういうふうに歩いたりとか住んだりとかするのかをイメージしながら、そういった検討も含めて、ハード面の整備も当然そこら辺のイメージを我々が議論しながらやっていかなきゃいけないんだなど、今日改めてなるほどなど私も捉えさせていただきましたので、そのあたりの議論も含めながら、じゃあこういう形が必要だよ、整備が必要だねということにもなればと思います。

【水野ファシリテーター】

わかりました。

それでは、今の公共空間整備について皆様のご意見をもう少しお聞きしたいと思います。

この資料6の中には、駅前広場とか新図書館、ラピオ、シンボルロード、公園、やすらぎみち等々分けてありますが、どの項目でも結構ですが、こんなふうにしたらどうかというご意見がございましたらおっしゃっていただけませんかでしょうか。

市長、お願いします。

【山下市長】

意見じゃなく確認ですが、景観形成重点区域のやすらぎみちで都市景観条例がここに書いてありますよね。これはどうなっていますか。やすらぎみちの都市景観条例は、これは何を指すためにどうやって書いてあるか、ざくっとでいいんですけど、確認しておきたいと思います。

【都市計画課長】

やすらぎみちでございますけれども、小牧市都市景観条例で規定をしております。ここの場所の基本目標ですけれども、「小牧の顔と心をつなぐ、歴史的趣と調和した緑豊かなシンボルロード」ということのでございまして、具体的にはまちづくりのルールを定めてございます。例えばですけれども、建築物の高さ、屋根、外壁などの色彩とかについてルールが定められております。あとは、工作物とか屋外広告物などについてもルールが定められております。

実際にそうしたものが、この区域の中で工作物の新設とかが行われる際には、ルールに合致しているかどうかということで市でチェックさせていただいている地区になってございます。

以上です。

【山下市長】

要するに、やすらぎみちについては派手にならずに落ち着いた空間にしましょうという方向ということですね。

ありがとうございました。

【水野ファシリテーター】

シンボルロードに花壇を今ずっと設置されてきていると思うんですが、どんな状況になっているんでしょうか。事務局からご説明お願いできますか。

【都市計画課長】

シンボルロードですけれども、小牧駅から小牧山に向かってそれぞれ整備を行ってきておりまして、おおむね完成形態として今現在にございます。

この道路につきましては、電線地中化が済んでおりまして、あとはそれぞれの道路に接する土地からの車の乗り入れだとか、そういったところを避けた部分には、基本的には歩道ということで、ブロックなどで少し積みまして、その部分には木を植えたり花を植えたりということで道路の整備がなされている状況でございます。

【水野ファシリテーター】

ありがとうございました。

ここのシンボルロードの写真のところは、Aゾーンに近いほうですよ。

Bゾーンのほうにも花壇がずっと、今お話あったようにできてきていますということですね。

生田委員、お願いします。

【生田委員】

お尋ねしますけれども、シンボルロードのページのイメージ図のようなオープンカフェとか、恐らく人が長い時間滞在するような写真ですけれども、こういうことに取り組んでいただけそうな商店の方とかが想像される状態でしょうか。

もし想像されるのであれば、全国的な話からすると、今、コロナなどで店の中で飲食すること自身が非常に危険ということで、外部空間に出て食事をするのが安全であるということから、こういうところに例外的にというか、一時的に少し規制を緩めて外に飲食の場所を許可しているということも進もうとしているのかなと思うんですけれども、ある程度、全体的に整備する前に社会実験的にやってくれそうなどころにやっていただくとかいうのもあるのかなと思ったんですけれども。

【水野ファシリテーター】

これは加藤委員、ご意見をお願いします。

【加藤委員】

本当にシンボルロードに接するところで飲食店といえるお店は、実際には3軒かなと思います。その中で、さっきも話題になったほていやさん、たこ焼き屋さん、中にも椅子とか机があるんですけれどもテイクアウトが多いので、結構みんなが並んでいるという感じ。その前にもしもベンチがあれば、そこで食べていくという人がいるのかもしれない。

もう1つ、たい焼き屋さんがある。そこは、いいのか悪いのかわかりませんが、外にベンチが実際置いてあるときもあり、そこを利用している人は、いることはいる。僕は、ああいうのを見て、そういうふうにするとういいなと思ったので、軽い食べ物でテイクアウトも含めてできるようなところが、外でち

よっと食べていくというようなイメージを僕は思って、もうちょっと高級なカフェみたいなのがあると  
もっといいとは思いますが、そういうちょっと座ってもいいよというのがあればそういうこと  
ができるんじゃないかなと。

僕は、さっき言った現図書館のところにオープンカフェみたいなのがあつて、道端とお店の境がない  
ような感じになって、外にもパラソルがあつて、外でも座って飲めるね食べれるねというところがこ  
こにあると、非常にBゾーンの核となるところになるので、150坪の2階建てまでだと思いたすけれど  
も、そういう制限の中であればそういうことができるのであれば、Bゾーンの核として現図書館の場  
所をオープンカフェを有する、人がちょっと休憩して集まれる場所とか、文化を薫らせるような展示ス  
ペースがあれば、そんなものができるといいなとは思っております。

#### 【水野ファシリテーター】

ありがとうございます。

そのほか、委員の皆様からご意見よろしいですか。

#### 【山下市長】

先ほど来のお話で、ベンチとかは歩道には現状はだめなんですね、きっと。これは、生田先生もお話し  
されたように、コロナの関係で例外的に張り出してもいいよということになってきている、規制緩和も  
進みつつあるんですけれども。

私も、今のお話、加藤委員もおっしゃったように、皆さんの合意形成ですけど、確かに歩道にこうい  
ったベンチだとかちょっとそこで食べれるとか、そういったことがあると、出店するほうももしかしたら  
もうちょっとこのシンボルロードに魅力を感じてもらえるのかなとも思うので、もしそういったことが  
できるのであれば前向きに検討していいんじゃないかなと感じています。

これって、法的にはどういう状況ですか。

#### 【都市計画課長】

道路上でございますので実際には道路管理者から道路占用許可ですとか道路使用許可という許可が  
要するという手続になるんですけれども、そのあたりにつきましては、国交省からも「道を活用した地域  
活動の円滑化のためのガイドライン」というものが出されておまして、生田委員が言われたように、  
少しずつそうしたものを許してもいいのではないかなという方向性で全国的には展開されつつある状況  
でございます。

以上です。

#### 【水野ファシリテーター】

ありがとうございます。

名和委員、お願いします。

#### 【名和委員】

さまざま素敵な意見が出てきておりますが、あくまでも事業者の意見としますと、どうしても費用対  
効果とか手続とか、そういうことから物を考えてしまうんですね。ですから、そういったものを後方  
支援とかフォローいただけるような仕組みや何かも同時に考えていかないと、いざここを開放しますよ、



でも、手続でつまずきました、費用対効果を考えたときなかなか手が出づらいねということが起こりかねない。そうしますと計画倒れになってしまいますので、やはりその辺もきちっと、後方支援や何かをする仕組みも同時に議論していったほうがいいのかなど。その先の話なのかもしれませんがこうしたいというのはそのあたりも議論したほうがいいのかなどと思いました。

【水野ファシリテーター】

ありがとうございました。

よろしいですか、そのほか。

【山下市長】

全くの余談ですけど、シンボルロードにオープンカフェという話で、新図書館の1階にスターバックスが入る予定になっております。新図書館の北側にあるシンボルロードから一步入った歩専1号線、ラピオのペデストリアンデッキを降りたところにオープンではないですけれども、そういう予定があります。一本入っていますので、シンボルロードではないですが、空間的な広がりという意味では、新しい図書館ができて人が来るようになればそこは人が増えるかなと思っています。

でも、規制緩和でやれるのであれば、ハード面の整備を待たずに考えられるのであれば、今のベンチの話とかについては前向きに市としても考えて、手続面とかそう面倒じゃないようにできるのか、そのあたりも含めて、これは早速考えたいと思います。

【水野ファシリテーター】

加藤委員、お願いします。

【加藤委員】

シンボルロードじゃないと言われた今の歩専のことですけれども、1ページ目の新図書館の右側のイラストのちょっと右側のピンク色のところが歩専になるんですが、今までせつかく広い歩道があったんだけど、なかなか活かされない道だったんですけれども、新図書館ができるとここがスターバックス側になるということで、結構魅力的な場所になるんじゃないかと僕も思っております。ここでイベントができるように、キッチンカーとかも乗り入れてきて電源がうまく使えるとか、そういうことができるといいなと思っています。

従来、歩専はいろんなことですごい制約があってイベントをやらせてもらえなかったという過去があるんですけれども、ここは新図書館と一体となってにぎわいを広げられる空間になり得ると思うし、駅とラピオをつなげる大事なところになると思うので、いろんな規制があるのなら、それは本当に取っ払っていろんなことができるように、人を集めることができるようにしてもらいたい。

いつもイベントをやるときに思うのは電源の問題で、なかなか供給がしにくくて、うるさい・臭いと言われる発電機をいっぱい持ってこなきゃいけないということがよくあるので、ここに施設があるなら電源がうまく供給できるように、今から電気工事できるのか分かりませんが。電源の問題はいつも出るので、電源供給がイベントの際にちゃんと確保できるようなことも考えておいていただけるとありがたいなと思っています。

【山下市長】

なるほど。ちょっと確認したいと思います。イベント空間としては、歩専1号線と新図書館の前の広場一体で使えるようにという計画になっていますので、これはよりにぎわい創出に向けて活用できるスペースになると思います。電源のことは確認させていただきます。

あわせて、イラストの向かい側、手前の駅の駅西広場についても、今工事が入っておりますが、将来的に今の計画で芝生的なイメージでイベントなんかもできるような広場を、ちょうど名鉄小牧ホテルの前側のところ、従来のタクシー乗り場のところはそういう整備をしていくことになっています。今、エレベーター設置工事とかいったことで進めている状況です。新図書館周辺と一体的にこの駅前の空間を使えるような形に、従来はなかったんですけども、これからはなっていくということで、加藤委員がおっしゃったように、イベント的には非常にやりやすくなるんじゃないかなと思っています。

電源まで私も頭になかったので、一遍確認させていただきたいと思います。

ありがとうございます。

#### 【水野ファシリテーター】

ありがとうございました。

電源の問題は、この歩専1号線にかかわらず、どこでも出てくる問題ですね。従来からこれは全て発電機でということしかないんですか。

#### 【加藤委員】

いつも電源のことが苦勞してて、今やっている城見市の会場ですと、近くの商店から1本ずつもらうプラス発電機で賄うということで、あまりお店に負荷かけると飛んでしまってお店の照明が切れるとか、とにかくいろんなことがある。余力があるところで少しずつもらってくるとか、長い線を引っ張って持ってくるとかそういうこともやっていたので、大きなイベントになればなるほど電源の問題が出てくるので、あらかじめ確保できるようになっていると本当にやりやすいなといつも感じておりますので、またよろしくをお願いします。

#### 【水野ファシリテーター】

ありがとうございました。

そのほか、皆様からこの公共空間整備について、資料6関係でご意見あれば、承りたいんですけども。よろしいでしょうか。

今日いろんな議論をさせていただきましたが、最初の資料2から6まで全てで何か言い忘れたとか、そういうお話ございましたらおっしゃっていただければと思います。よろしいですか。

それでは、いろいろとご意見ありがとうございました。

以上で、今日議題としております皆様に意見を伺う件についてはここで締めたいと思います。いろいろとご意見ありがとうございました。

最後に、市長から一言お願いします。

#### 【山下市長】

ありがとうございました。

第3回の中心市街地グランドデザイン戦略会議ということで、先ほどから申し上げているように、第2回から大分間が空いてしまいましたので、過去の議論が大分、私も含めて頭からちょっと抜けて、思

い出しながら前回の議論からつないでいただいたんじゃないかなと思います。そういう意味ではやりにくかったかなと思いますけれども、今までいただいたご意見、この資料にあるとおり主な意見をまとめさせていただいて、そういう意味では各方面から多角的な視点でいろいろと貴重な意見をいただいたものと思っております。感謝申し上げたいと思います。また、今日いただいたご意見についても整理させていただいて、中心市街地グランドデザインということで市としてもさらに検討を深めていきたいと思っております。

この件については、図書館とかラピオの再構築もそうですし、現図書館もそうですが、実際に今まさに動いているテーマでありますので、進めながらしっかり議論しながら、全体として調和した形に進めていかなきゃいけないだろうと思っております。

また、今日の議論を踏まえてお気づきの点等ありましたら、別途、個別でも結構でありますので、ぜひ引き続きご意見等いただきたいと思っておりますので、引き続きのご指導をお願い申し上げます、お礼にかえさせていただきたいと思っております。

今日は大変ありがとうございました。

**【水野ファシリテーター】**

ありがとうございました。

続きまして、議題（3）その他を議題といたします。

初めに、事務局よりお願いいたします。

**【都市計画課長】**

事務局から1点でございます。

次回の会議についてであります。次回につきましては、10月から11月頃を予定いたしております。改めて調整させていただきますので、よろしくようお願い申し上げます。

以上です。

**【水野ファシリテーター】**

ありがとうございました。

その他、委員の皆様方から何かございますでしょうか。

なければ、以上で本日予定しておりました議題につきましては全て終了いたしました。

事務局に進行をお返ししたいと思います。

円滑な会議進行にご協力いただきまして、ありがとうございました。

**【都市政策部長】**

長時間にわたりご議論いただきましてありがとうございました。

なお、本日の会議の会議録につきましては、作成のお時間を頂きました後、委員の皆様にご確認をしていただき、市のホームページなどで公開してまいりたいと考えております。

それでは、これをもちまして第3回中心市街地グランドデザイン戦略会議を閉会させていただきます。

誠にありがとうございました。